

学術事業報告

学発番号：学13-048

研修会名：第14回京都北部CDEの会講習会

日 時： 平成25年11月17日(日)13:00～16:35

場 所： 舞鶴医療センター内地域医療研修センター

主 題1： もしも糖尿病患者さんにコーチがいたら～糖尿病療養指導の新たなアプローチ～

講 師1： 森岡浩平(森岡内科副院長)

参加数： 27人(会員2人、非会員25人)

報告者： 滝本寿史(綾部市立病院)

以下、講演内容など

前編は、「医療者と患者さんのよりよい関係性をめざして」と題して、コーチングの基礎を学びました。現在の医療は急性期疾患をもとに関係性ができています。糖尿病などの完全に消え去らない慢性疾患に当てはめると、「～しなさい」になってしまいます。これからの糖尿病診療はその関係性のパラダイムシフトを起こす必要があります。つまり、患者さんを医療者に合わせるのではなく、患者さんに医療者が合わせる関係性。患者さんが糖尿病を自分のこととして、自分で考え、自分で行動できるようになり、医療者は患者さんをサポートする関係性を再構築する必要があります。コーチングとは、目標達成を支援する技法で、その語源は「馬車」、その人が望む目的地まで、望む方法で安全にお連れすること。ポイントは、目的地は本人が決めること、やり方も本人が決めることが重要です。コーチの役割は、マラソンの伴走者と同じで、実際に走ってゴールを切るのは選手です。コーチはそれに関わる人、サポートする人です。コーチングでは、「答え」は相手の中にあり、そのことを信じることから始まります。「相手が自分で考えて、自分で行動することを支援する」、この一言に尽きます。後編は、「簡単なコーチングを活かした糖尿病療養指導のコツ」と題して、人間関係力について学びました。非言語コミュニケーションにもアンテナを立てること、リフレイン(繰り返し)をうまく活用すること、承認(とにかく褒めまくる)について、実践を交えて教えていただきました。コーチングは糖尿病療養指導において、有効な技法であると思いました。